



2023年12月期 決算説明会

2024年3月14日
市光工業株式会社

VISION IN MOTION



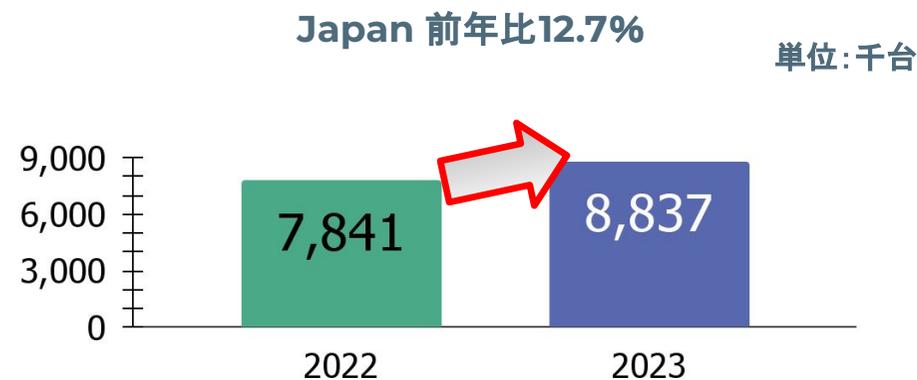
目次

- ① 2023年12月期決算概要(2023年1月～12月)
- ② 2024年12月期業績見通し (2024年1月～12月)
- ③ PBRに関して
- ④ 中長期の見通し

01 2023年12月期決算概要 (2023年1月～12月)

売上高とマーケット生産台数（前年同期対比）

マーケット生産台数(出典マークラインズ)



2023年度売上高(ミラー事業除く)対マーケット生産台数

2023 vs 2022	当社 売上高 (金型以外、為替 影響除く)	マーケット 生産台数 増加率	売上高対 マーケット生産台数
Japan	15.8%	12.7%	+3.1ポイント
ASEAN	13.4%	▲1.1%	+14.5ポイント

*ASEAN: Malaysia, Indonesia, Thailand

両地域とも市場をアウトパフォーム

- 日本は、回復基調にある市場において、新プロジェクト立ち上げ(新型車投入を含む)により **増収を達成**
- アセアンは、市場が弱含んでいるなかで、新モデル投入(新規顧客を含む)により **市場を上回る強い成長を達成**

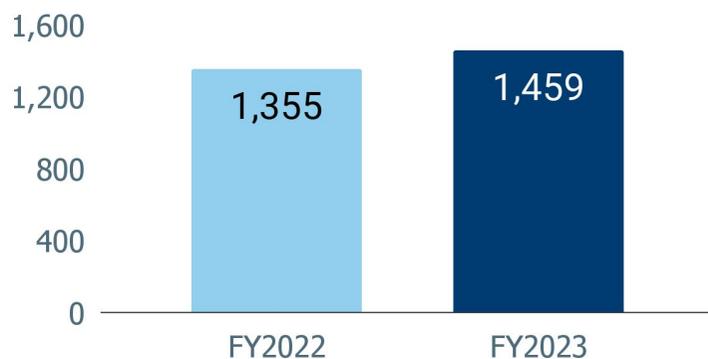
2023年12月期 連結業績概要(対前年比較)

- ◆ 売上高は、国内とアセアンともに増収になり、ミラー事業の売却による減収を補完
- ◆ 営業利益は、売上増加に加え、生産性向上とインフレの価格転嫁により増益

単位:億円/四捨五入

	FY2022同一期間 (2022年1~12月)	FY2023 (2023年1~12月)	増減額		増減率
			①	②	
売上高	1,355	1,459	①	104	7.7%
営業利益	39	74	②	35	88.5%
営業利益率	2.9%	5.1%	②/①	33.4%	2.2ポイント
経常利益	54	81		28	51.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	78		34	77.2%

連結売上高推移



連結営業利益推移



2023年12月期 連結業績概要(対予想比較)

- ◆ 売上高は予想を若干上回り、**営業利益**は日本事業の**業績改善**により**予想を大幅に過達**
- ◆ 当期純利益は伊勢原土地売却益等が好影響

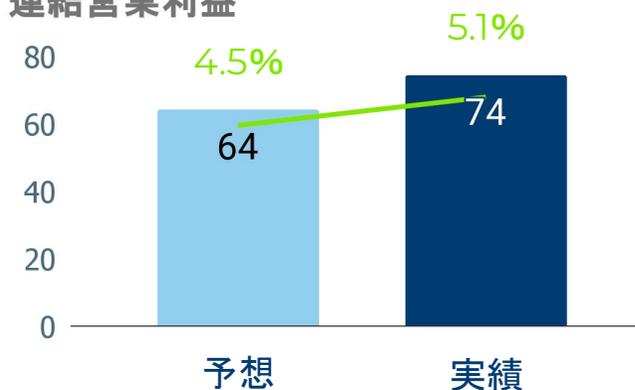
単位:億円/四捨五入

	FY2023予想 (2023年1~12月) 2023.11.13.東証発表	FY2023実績 (2023年1~12月)	増減額 (対予想比)		増減率
売上高	1,435	1,459	①	24	1.7%
営業利益	64	74	②	10	16.0%
営業利益率	4.5%	5.1%	②/①	42.6%	0.6ポイント
経常利益	72	81		9	12.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	70	78		8	12.0%

連結売上高



連結営業利益



四半期業績推移

売上高

◆ 例年1Qと4Qは堅調で、2Qと3Qは低調な傾向

単位: 億円/四捨五入



営業利益



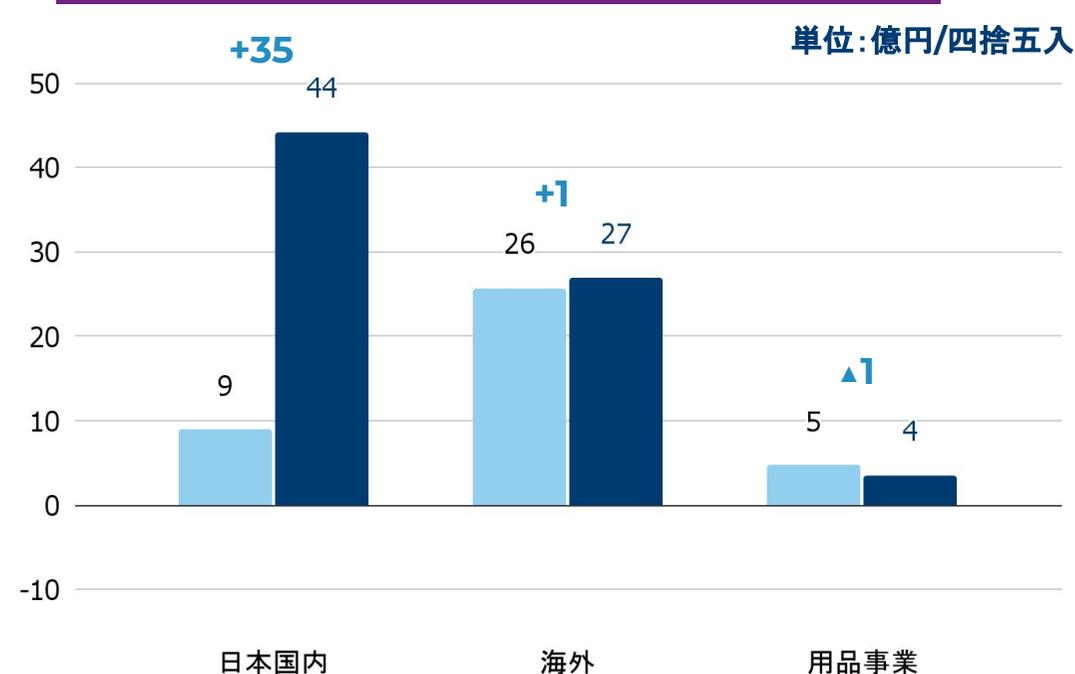
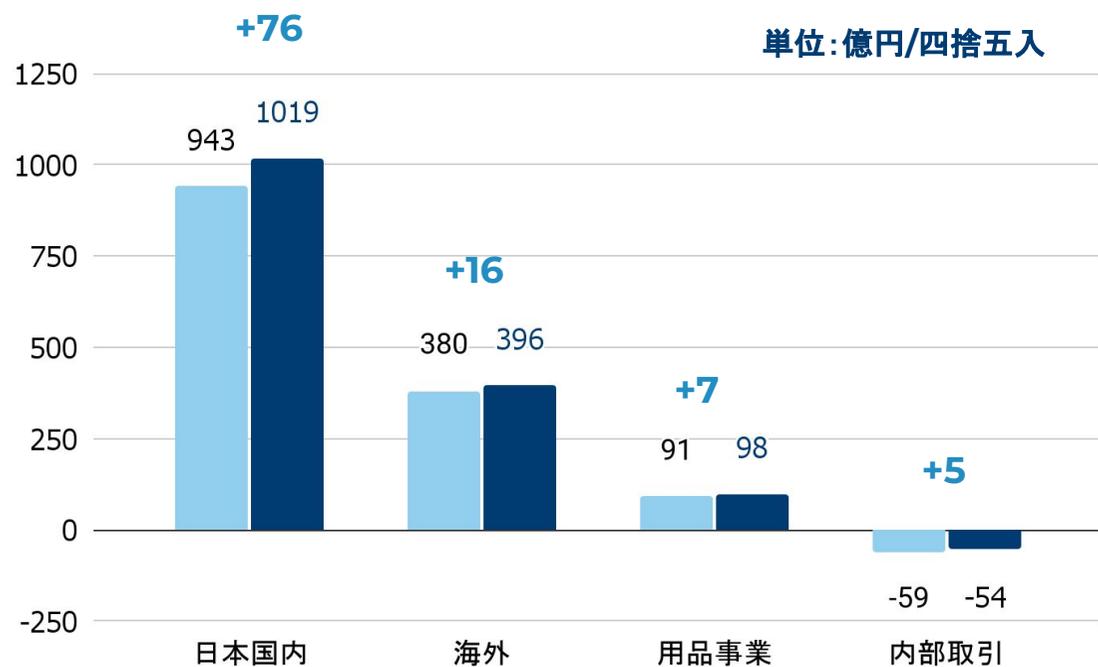
2023年12月期地域別業績(対前年比)

- ◆ 国内: 売上増加、厚木工場の生産性向上、エネルギーだけでなく円安による輸入コストの価格転嫁により増益
- ◆ 海外: ミラー事業の中国子会社の売上がなくなり、またアセアン市場がマイナス成長の中でも、新規立ち上げ寄与により増益

2022年12月期 2023年12月期

売上高 1,355⇒1,459(前期比+104)

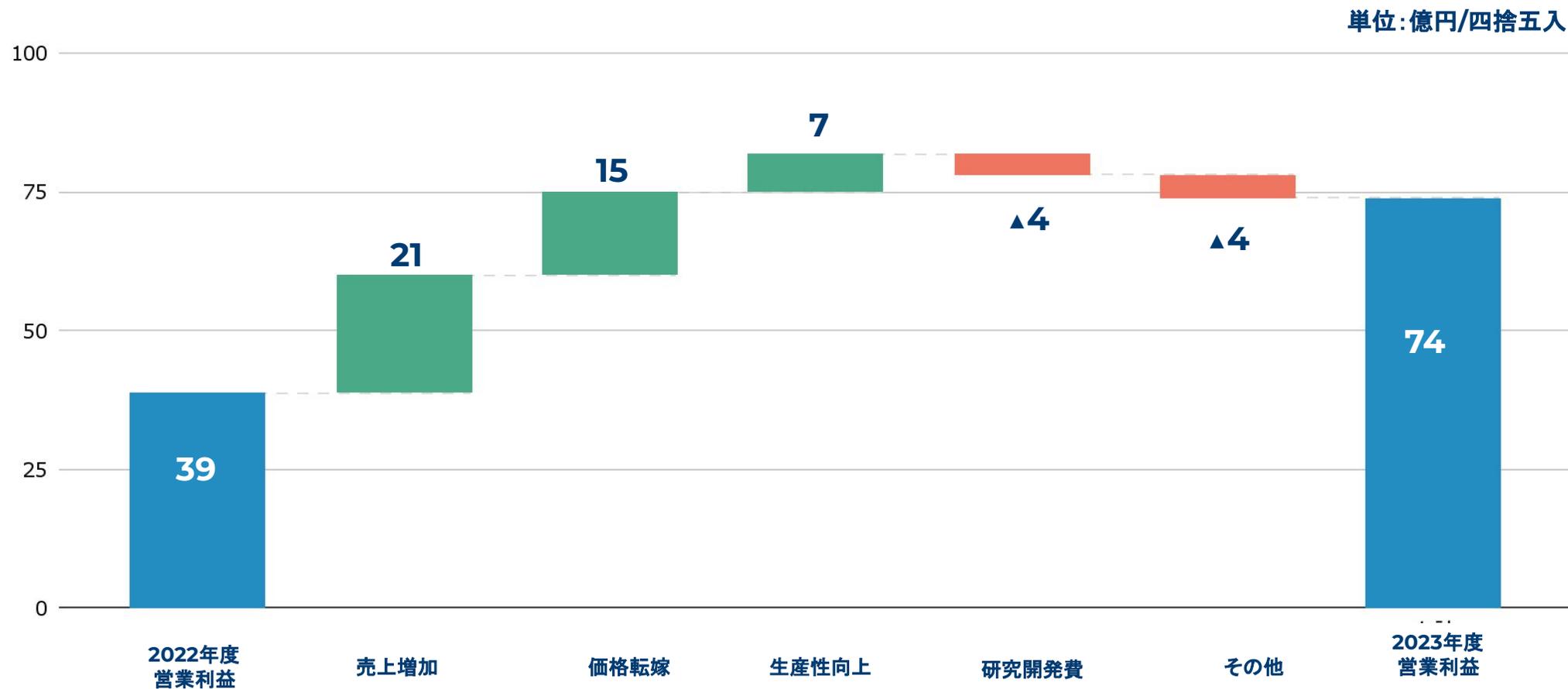
営業利益 39⇒74(前期比+35)
営業利益率 2.9%⇒5.1%(前期比+2.2ポイント)



日本国内: 伊勢原・藤岡・ミラー・本社・九州市光(営業利益のみ)、海外: インドネシア・マレーシア・タイ・中国、その他: 用品事業(PIAA)

2023年12月期 営業利益のポイント(対前年比)

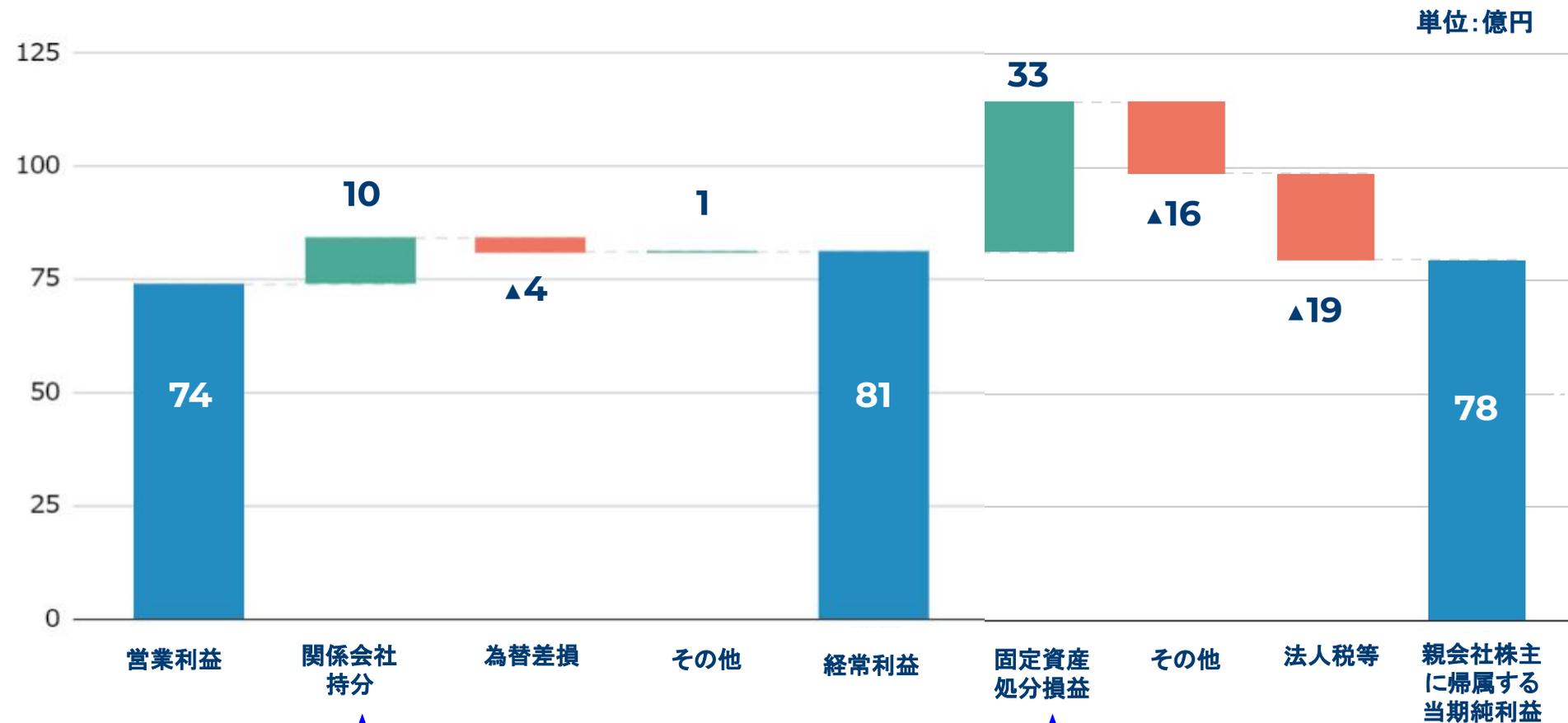
- ◆ 売上の増加、国内の生産性向上、インフレの価格転嫁が進み、大幅な増益



2023年12月期 業績のポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

- ◆ 経常利益: Valeoとの在中國ライティング合併会社からの持分利益は10億円を計上(昨年より5億円減少)
- ◆ 当期純利益: 関係会社売却損等を伊勢原の土地売却益が補完



中国におけるヴァレオとのライティング合併会社

伊勢原の土地売却利益

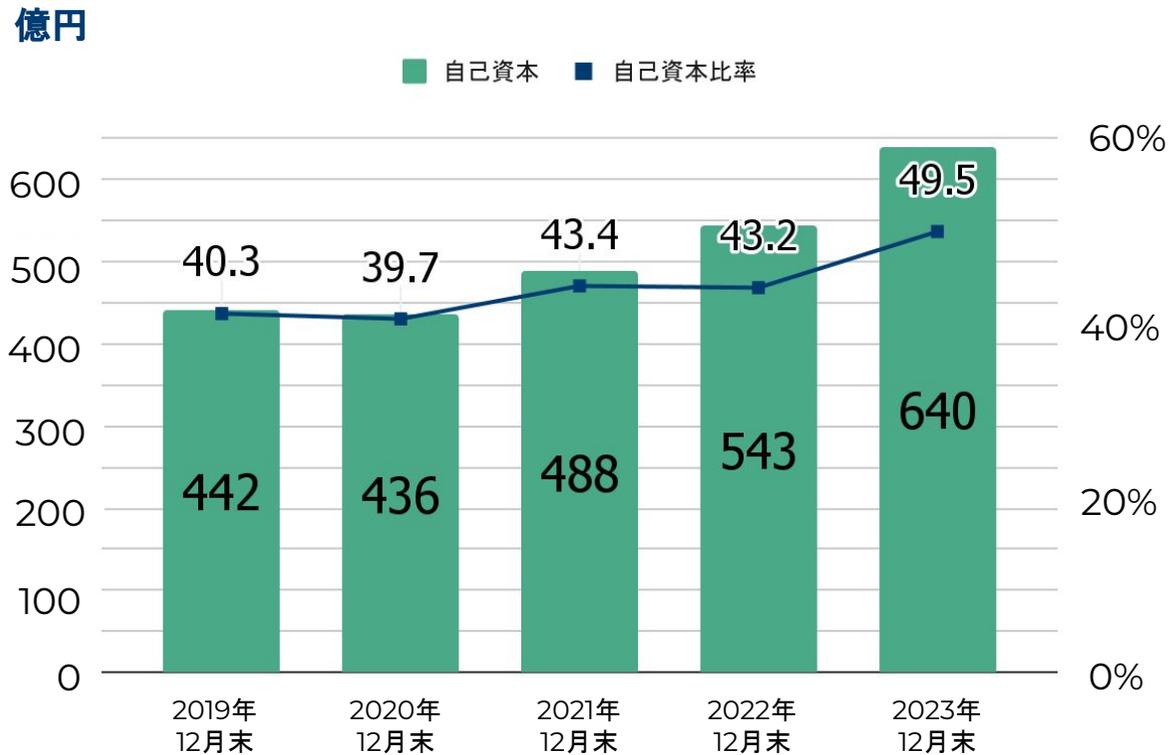
連結貸借対照表(前年度期末比)

単位:億円/四捨五入

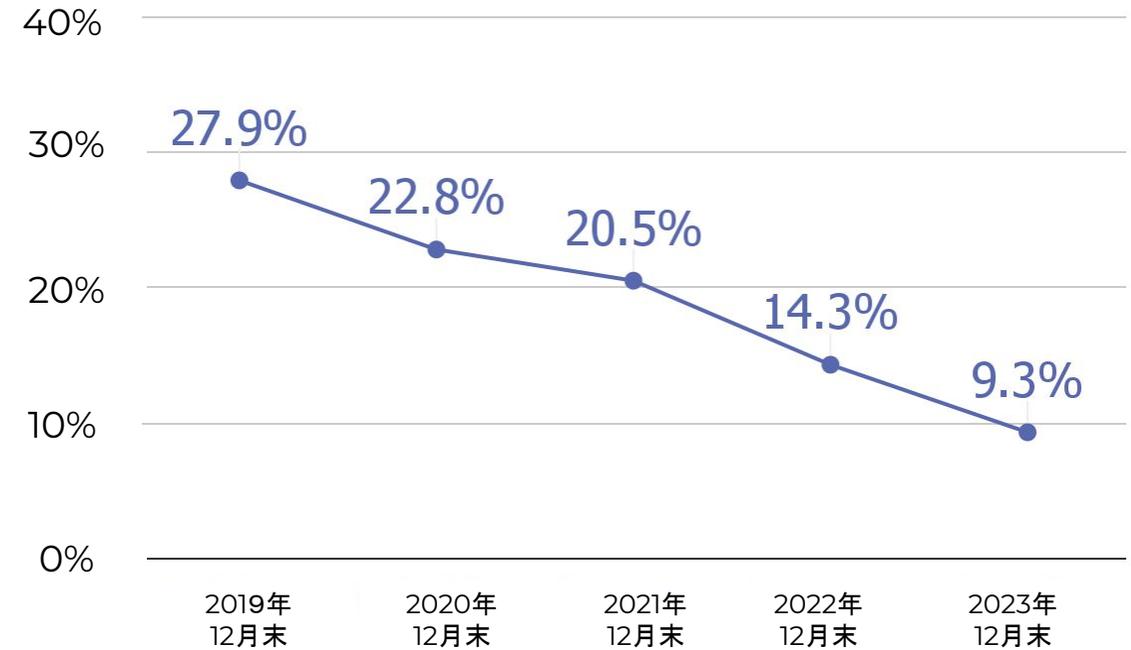
	End of Dec 2022	End of Dec 2023	増減
現金及び預金	86	89	3
棚卸資産	135	94	▲41
有形固定資産・無形固定資産	425	398	▲27
その他	613	713	100
資産の部	1,259	1,294	35
有利子負債	78	60	▲18
その他の負債	631	587	▲44
負債の部	709	647	▲62
株主資本	561	630	69
その他包括利益累計額	▲18	10	28
非支配株主持分	7	7	0
純資産の部	550	647	97

自己資本比率とD/E レシオ

自己資本比率は50%近くまで上昇

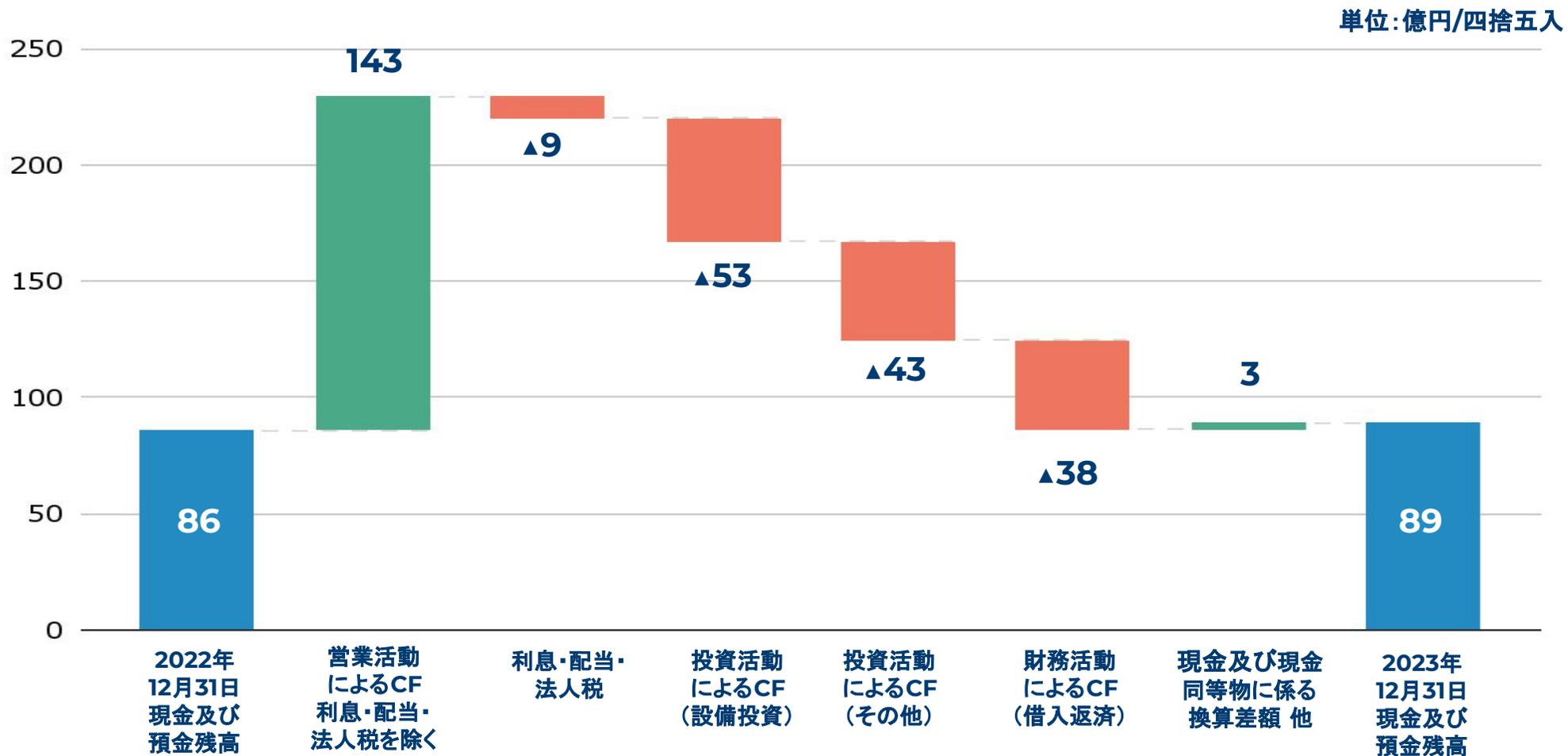


D/E レシオは着実に低下



2023年12月期 連結キャッシュフロー(前年度末からの増減)

◆ 営業CF134億円(利息・配当・法人税含む)により、投資活動 96億円並びに財務活動 38億円を充当



02 2024年12月期業績見通し (2024年1月～12月)

2024年12月期 連結業績見通し

- ◆ ミラー事業の売却、車両認証問題の影響等をおり込み減収減益予想
ただし、営業利益率は0.1ポイント上昇

単位:億円/四捨五入

	FY 2023 (2023年1~12月)	FY 2024 (2024年1月~12月)	増減額		増減率
売上高	1,459	1,290	①	▲169	▲11.6%
営業利益	74	67	②	▲7	▲9.7%
営業利益率	5.1%	5.2%	②/①	4.3%	0.1ポイント
経常利益	81	75		▲6	▲7.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	78	50		▲28	▲36.2%

連結売上高推移



連結営業利益推移



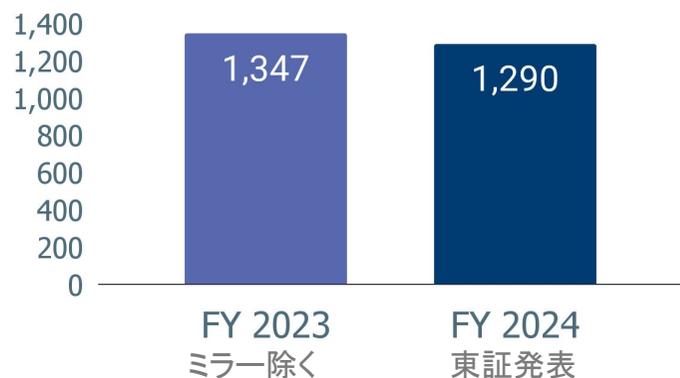
2024年12月期 連結業績見通し(2023年ミラー事業を除く vs 2024年東証発表)

- ◆ 2024年の当初予算は、ミラー事業の業績を除く2023年実績と比べて売上横ばい、増益を想定していた
- ◆ 東証発表の2024年業績予想では、車両認証問題等を考慮して減収減益予想に変更

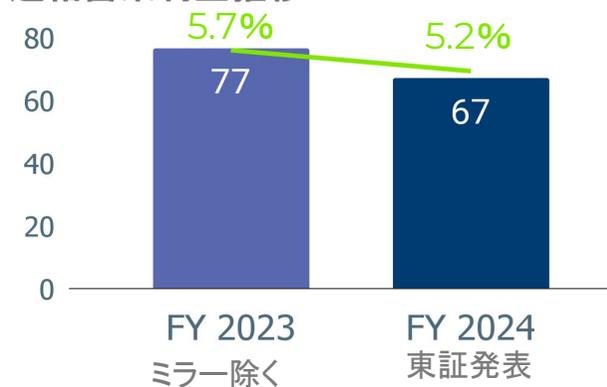
単位:億円/四捨五入

	FY 2023 (ミラー事業除く)	FY 2024 (当初予算)	FY 2024 (東証発表)	増減額 (FY2023vs東証発表)		増減率
				①	②	
売上高	1,347	1,340	1,290	①	▲57	▲4.2%
営業利益	77	81	67	②	▲10	▲12.6%
営業利益率	5.7%	6.0%	5.2%	②/①	17.1%	▲0.5ポイント

連結売上高推移



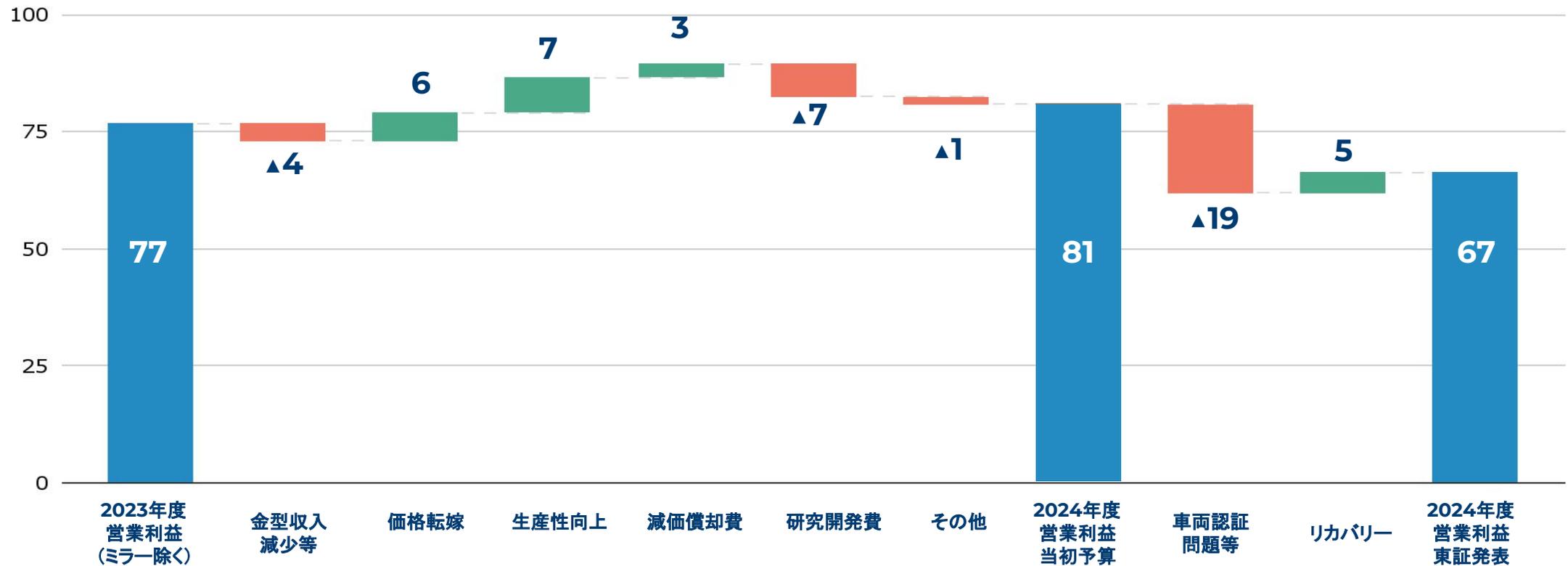
連結営業利益推移



2024年12月期 営業利益のポイント (2023年ミラー事業除く vs 2024年当初予算 vs 東証発表)

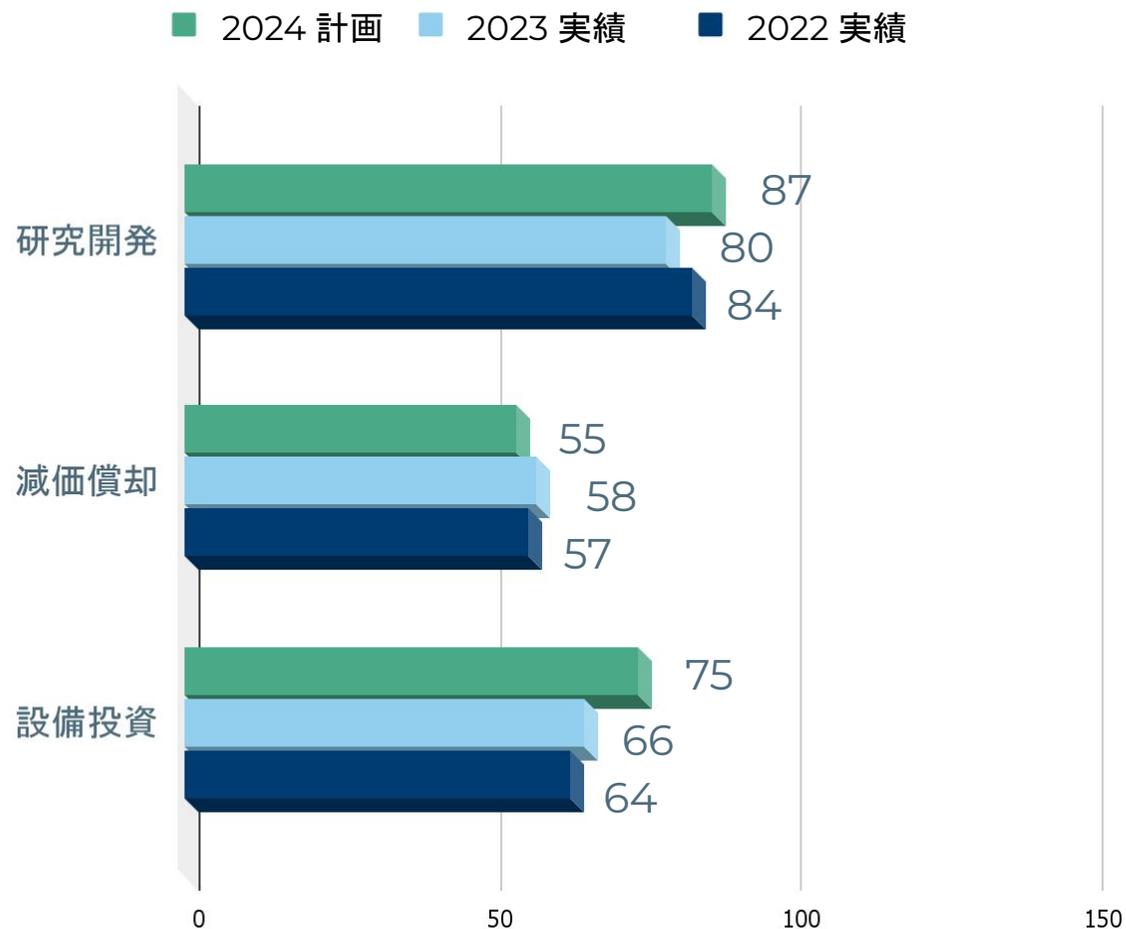
単位: 億円/四捨五入

- ◆ 2024年度の予算は当初、生産性向上と不良コスト低減により前年比増益を想定したが、車両認証問題等の影響等をおりこみ減益予想へ転換
- ◆ 将来の事業成長を確保するために、対売上比7%を上限に管理しつつ研究開発費を引き上げ



2024年12月期 設備投資・減価償却費・研究開発費 計画

単位：億円/四捨五入



✓ 2024年度の研究開発費は、ハイエンド製品の開発強化、次世代BEVに向け製品高度化への対応、主要顧客が導入する新しい電子システムアーキテクチャへの対応のために増加

✓ 2024年の減価償却費は、ミラー事業の売却と、ここ数年の厳格な設備投資管理により減少

✓ 2024年度の設備投資は、国内での2025年のSOPに備えての投資、国内とアセアンでの2023年投資計画分の繰越し等により増加

※研究開発費には、試作費、PJ開発コストを含む
※設備投資にはリースによる投資も含む

配当政策及び配当性向

配当金の推移 (単位:円/1株当り)



基本方針

- (1) 内部留保を活用した積極的な研究開発及び設備投資により企業価値の向上を図る
- (2) 株主の皆様に対する利益還元の向上を図ってゆく

(1)(2)の双方を達成すること

株主還元に関しては、株主に投資いただいた資本を活用し企業価値の向上を図ることを最優先事項とし、自社株買いより配当を重視

2023年 期末配当

- ✓ 配当予想額は目標配当性向 20%を考慮して決定
- ✓ 予想より大幅な増益。その結果、配当性向は目標値を下回る結果に

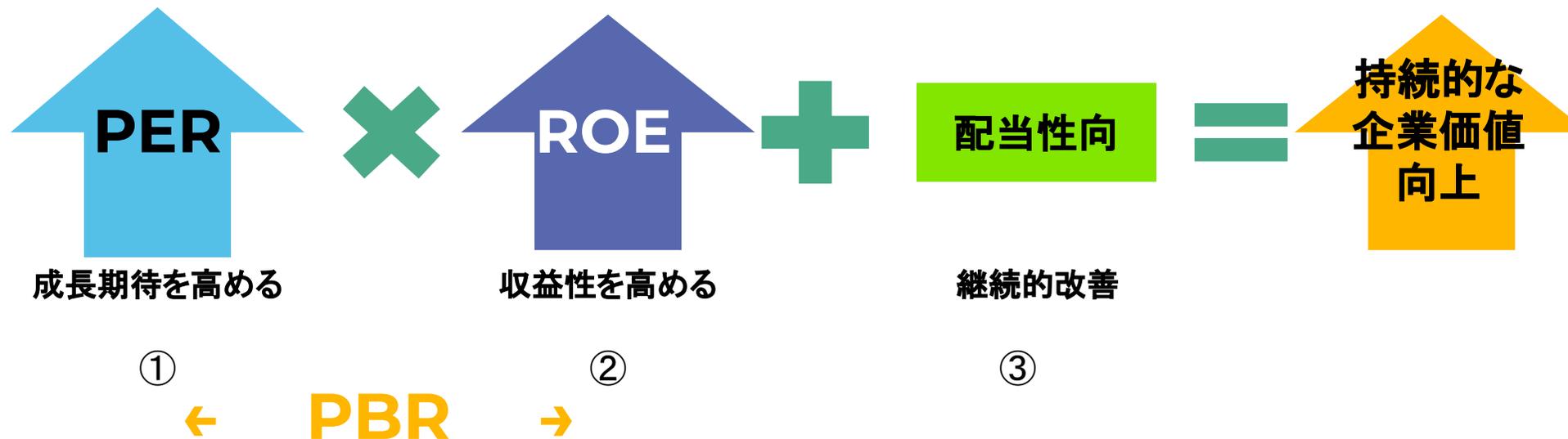
2024年12月期 配当予想

- ✓ 配当性向は目標の 25%を考慮
- ✓ 年間配当13円を予定⇒昨年度より2円増配

03 PBRに関して

企業価値向上に向けての施策

持続的な企業価値向上を目指し、**PBR(1倍超目標)**と配当性向の向上を図る

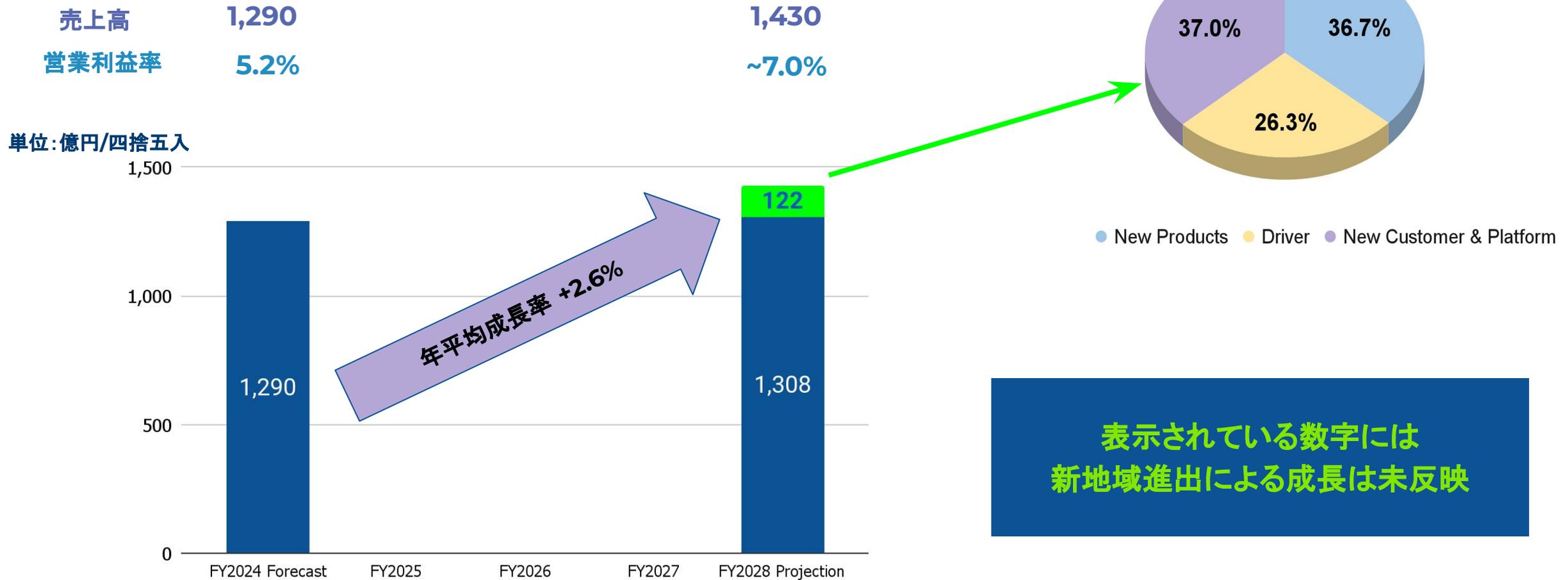


指標	目標	2022年末実績	2023年末実績
PER	15.0倍	7.9倍	6.2倍
ROE	12.0%	8.6%	13.2%
配当性向	25%~	19.6%	13.5%
PBR	1.80	0.68	0.82

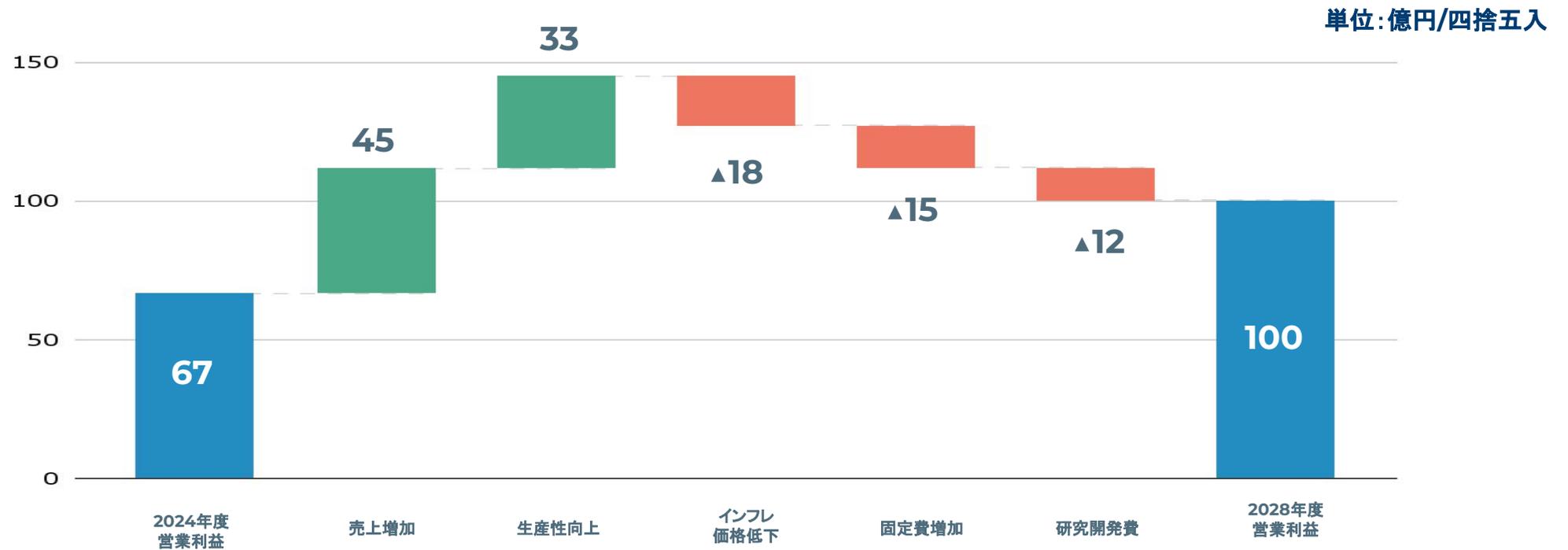
04 中長期の見通し

中期の見通し

- ◆ 2028年に売上高1,430億円以上、営業利益率~7%を目標に**着実な成長**を見込む



中期の見通し: 営業利益のポイント(2024年度vs2028年度)

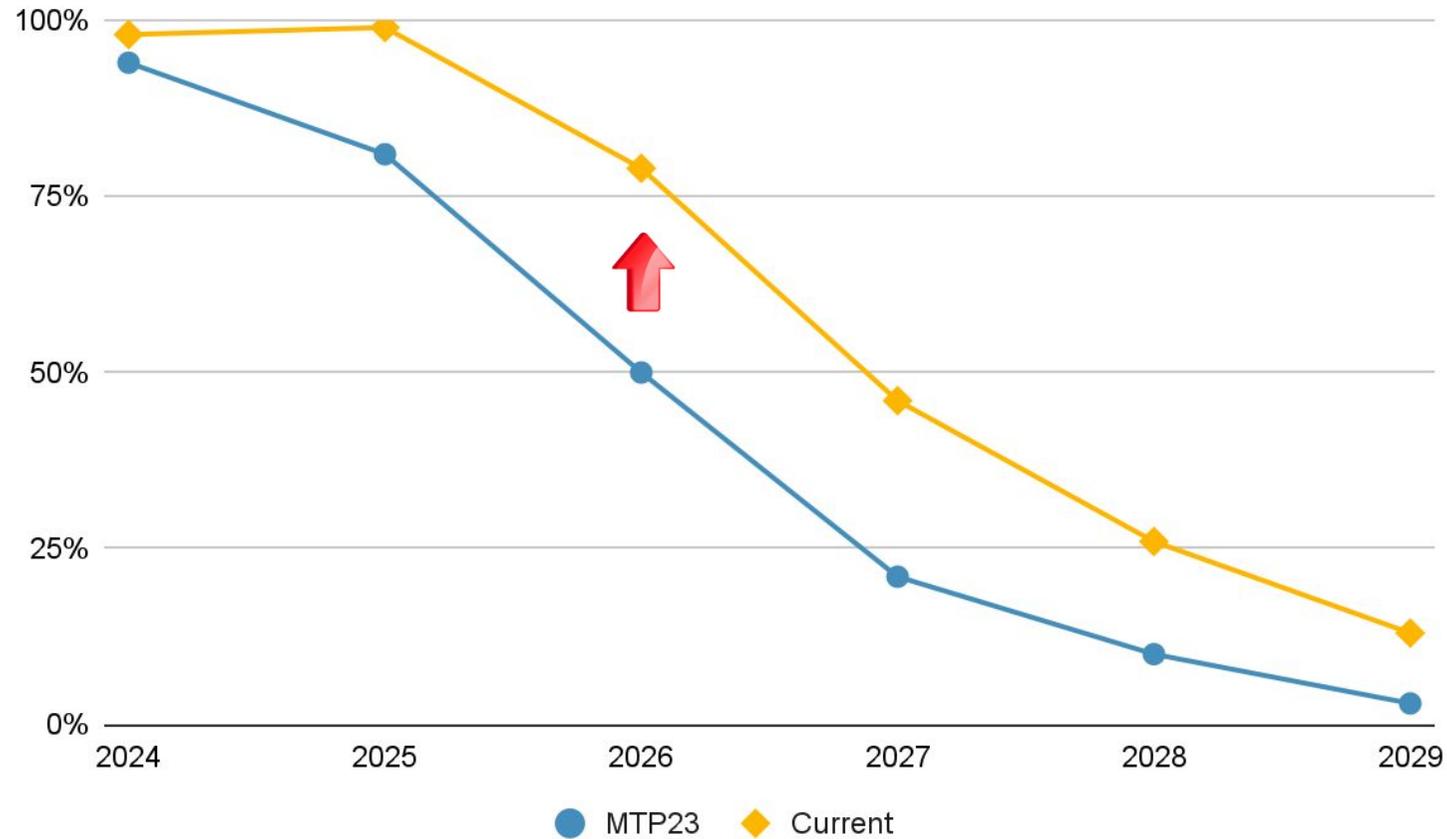


売上増加と生産性向上等のオペレーション効率化により収益性が改善:

- ◆ 毎年の生産性向上・オペレーション効率化により、インフレーションと価格低下によるネガティブな影響をカバー
- ◆ 固定費と研究開発費の増加を補完して上回る売上増加

BOOKED RATIOの進捗状況

- ◆ 各年別のBooked Ratio*は 順調に進捗



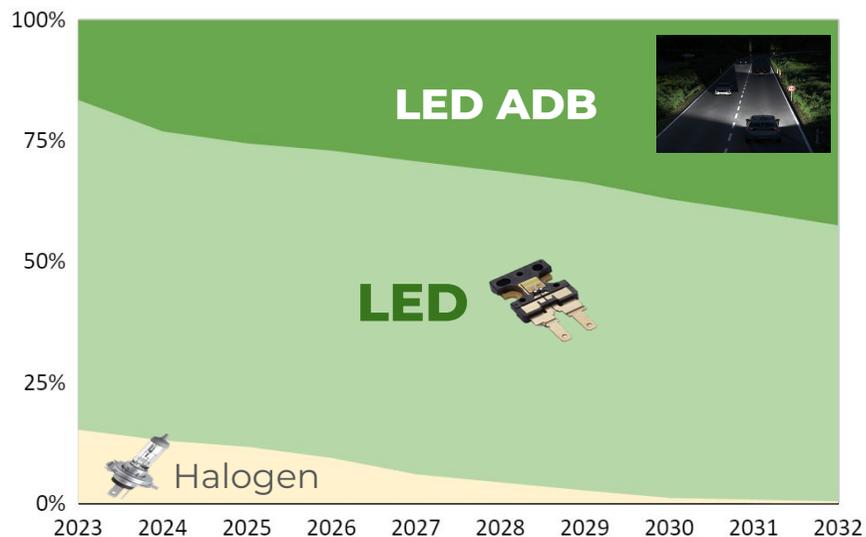
* Booked Ratio: 各年の想定売上高に対して既存製品と新規受注確定済み分が占める割合

ヘッドランプ / リアランプの使用光源推移予測 (弊社予測)

Japan



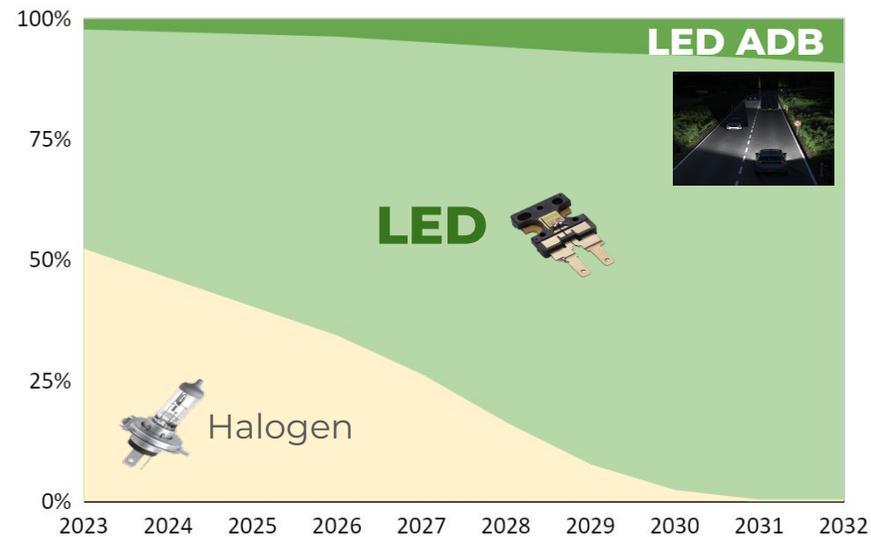
Head Lamp



Asean



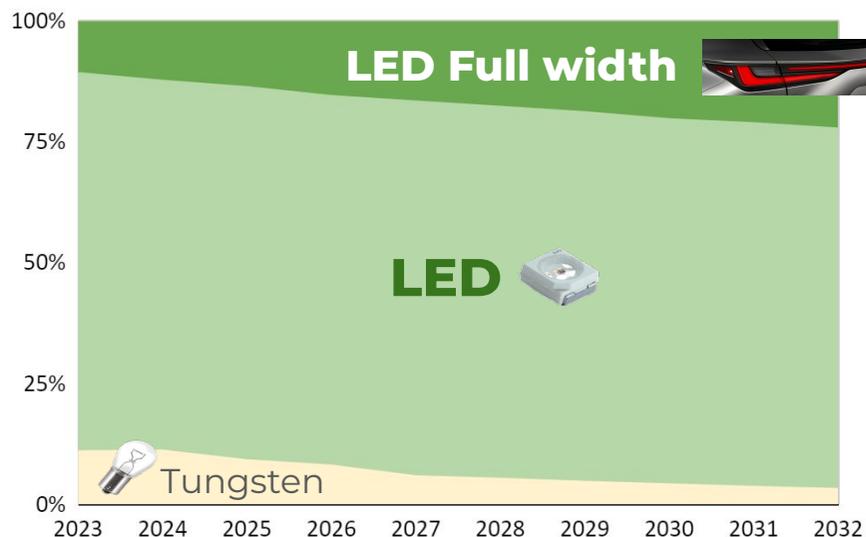
Head Lamp



Japan



Rear Lamp



Asean



Rear Lamp



新時代の車両に向けたインテリジェントなライティング 進化するコミュニケーション・ライティング

路面描画プロジェクトン:

歩行者や自動車、バイクなどの道路利用者とのコミュニケーションを目的とした新しいアプローチ。
これにより、ドライバーだけでなく周囲の道路利用者に車両の動きや危険をわかりやすく伝え、接触事故を低減するのが目標。



次世代フロント&リアライティング:

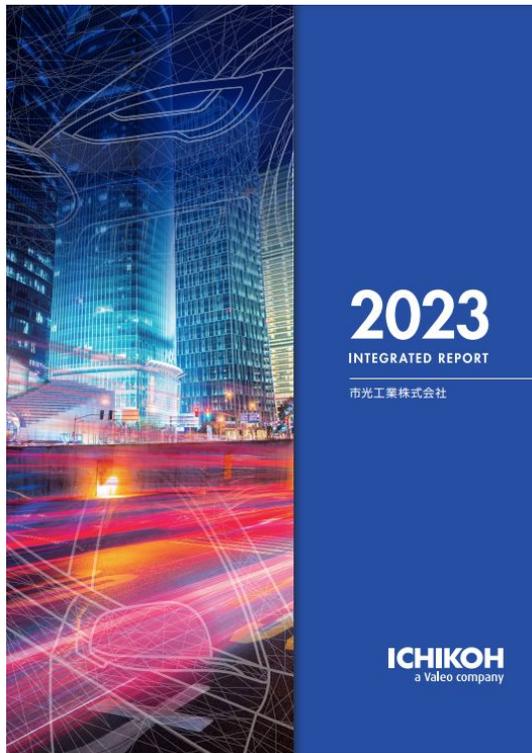
電動化・自動運転時代のくるまのための新しいライティングコンセプト。
フロントフェイスでは、ランプとグリルに繋がりを持たせ、ヘッドランプと併せてコミュニケーションの役割を担うなど新しい役割を期待。
リアフェイスでは、車両に先進的な印象をもたらし、大型のライティングエリアは"被視認性"というリアランプの最も重要な役割をさらに強化。



2023 統合報告書の公開

市光工業は、2023年12月に初の統合報告書を公開。
 サステナビリティ、ダイバーシティ推進、企業の社会的責任を通じて、グローバル社会の発展に貢献する
 市光グループの姿勢を明示。
 当社ホームページに掲載。

<https://www.ichikoh.com/asset/80688/view>



市光工業のミッション

- より環境に優しく、より安全で、より優れた移動手段実現のための革新的で高品質な製品を提供し、顧客にとって最高のパートナーとなります。
- 市光の「日本流」の経験を活かし、日系自動車メーカーとの取組引継ぎ「ヴァレオ」の事業展開をリードします。
- 高度な開発、プロジェクト管理、生産の立ち上げの成功を確保するため日系自動車メーカーとヴァレオとの間の「インターフェース」として
- 技術と革新をリードするヴァレオの方針を浸透、適合させることによる技術的なブレイクスルーを通じて日系自動車メーカーと
- 財務実績を継続的に向上させ、コンプライアンスや倫理的社会的責任やカーボンニュートラルの向上にも取り組む

Our Mission

日本語

イノベーション	1
市光工業のミッション	3
市光工業の歴史	5
市光工業の組織	7
市光工業グループ 事業の強み	9
2023年度 業績概算	11

市光工業のあゆみ

市光はかつてまで2023年6月6日現在120周年を迎えました。その歴史は、1903年（明治36年）に創業した市光自動車、1916年（大正5年）に創業した市川製作所が、1966年（昭和41年）に合併し、モーターシートの創業にも大きな発展を遂げてきました。市光は、日本最大のコンシューマー向け自動車部品製造メーカーとして、常に最先端の技術と製品を提供し、顧客の期待に応えるべく、グローバル市場へと進化を続けています。

2008年に、ヴァレオの買収を受け得て自動車用エアラインズ事業がスタートし、2017年に株式会社によるヴァレオとの統合によりグローバルに事業を展開。市光は、株式会社ヴァレオグループの強固な経営基盤を継承することで、より環境に優しく、より安全で、より優れた移動手段の実現に貢献し、顧客の期待に応えるべく、グローバル市場へと進化を続けています。

トップメッセージ

市光工業を伝えるのは人財

100年の歴史の中で、市光工業は多くの困難を乗り越え、常に顧客の期待に応えるべく進化を続けてきました。その歴史の中で、市光工業は多くの困難を乗り越え、常に顧客の期待に応えるべく進化を続けてきました。その歴史の中で、市光工業は多くの困難を乗り越え、常に顧客の期待に応えるべく進化を続けてきました。

市光とヴァレオのアライアンスの歴史

市光工業とヴァレオは、2008年の買収から始まり、現在は統合を完了し、新しいスタートを切っています。この統合により、市光工業の強みとヴァレオの強みを組み合わせ、顧客の期待に応えるべく進化を続けていきます。

市光工業が進むべき方向性とは

市光工業は、顧客の期待に応えるべく進化を続けていきます。その歴史の中で、市光工業は多くの困難を乗り越え、常に顧客の期待に応えるべく進化を続けてきました。

サステナビリティ:コーポレートガバナンス

市光工業は、次の3月27日に予定している株主総会で、ガバナンス強化のために女性の独立役員の選任が決議事項。さらに独立役員比率が1/3。

取締役構成メンバー(3/27付選任予定)

氏名	役職名	執行役員としての役職名
オードバディ アリ	代表取締役会長	監査室管掌
ヴィラット クリストフ	代表取締役社長	CEO/ライティング事業本部長
宮下 和之	代表取締役副社長	CTO/開発本部およびプロジェクトマネジメント本部担当、先行開発本部長
白土 秀樹	取締役	CFO/専務執行役員/経営企画室・法務室・経理本部担当
マルテネッリ マウリッツオ	取締役	
ペレス ラウール	取締役	
青松 英男	社外取締役	
佐川 明美	社外取締役	
リエナール フランソワ ザビエ	社外取締役	
加藤 伸曜	常勤監査役	
鶴巻 暁	社外監査役	
ジュアス ジャンイヴ	社外監査役	

取締役スキルマトリクス(3/27付選任予定者)

氏名	企業経営	自動車部品業界での経験	技術・イノベーション	法務・リスクマネジメント	財務・会計・M&A	ESG	親会社との連携	ガバナンス	独立性	ダイバーシティ(ジェンダー)
オードバディ アリ	●	●	●				●	●		
ヴィラット クリストフ	●	●	●		●	●	●	●		
宮下 和之	●	●	●			●	●			
白土 秀樹	●			●	●			●		
マルテネッリ マウリッツオ	●	●	●			●	●	●		
ペレス ラウール	●	●		●	●		●			
青松 英男	●				●			●	●	
佐川 明美	●				●	●		●	●	●
リエナール フランソワ ザビエ	●	●			●			●	●	

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社(以下、当社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company